

2026年度 水資源・環境学会 研究大会

自由論題部 要旨

水辺環境という環境学習の場－三重県亀山市の事例から－

新玉 拓也

(魚と子どものネットワーク)

本報告は、三重県亀山市における水辺環境を活用した環境学習の実践について、水環境保全活動との関連から検討するものである。亀山市では、河川や水路、ため池など多様な水辺が、水質保全や生物多様性の維持、アメニティーの向上といった機能を担うとともに、環境学習の重要な場となっている。発表者らが運営する「魚と子どものネットワーク」は、淡水魚の保全や水生生物調査、清掃活動などを実践しつつ、自然観察会「鈴鹿川探検隊」や親子クラブ「魚と子ども Kids クラブ」を通じて、子どもが地域の自然に継続的に関わる機会を創出してきた。さらに、亀山市の環境政策や自然公園、流域保全に関する制度・協議会との連携により、市民団体の実践が地域における環境学習基盤の形成と担い手育成に寄与している点に特徴がある。本報告では、水辺環境を保全と学びを結びつける場として捉え、その意義と継承に向けた課題を提示する。